

鹿児島大学歯学部創立30周年に寄せて

鹿児島市歯科医師会会長 森原久樹

鹿児島大学歯学部創立30周年おめでとうございます。
このような記念すべき節目に挨拶をさせていただく事に心から感謝致すとともに、大変光栄に思っております。

30年前といえば私が歯科大学を卒業して約5年間の勤務をしたあと鹿児島市内で開業したのが昭和47年ですので、それから5～6年してから創立されたわけですので私もしっかりと覚えております。当時は患者さんも多く、3時間待ち3分治療と揶揄されていた時代で、歯科医師は老若を問わず忙しく大変疲れていた頃でした。何故老若男女と言わず、老若としたかは、当時は女性の歯医者さんは極端に少ない時代で、また重労働には耐えられなかったのではないかと思うほどの仕事量でした。

そんな中、歯学部誘致に奔走されていた当時の鹿児島県歯科医師会会長の浜田勤之助先生に同窓の大先輩と云う事で、何故鹿児島大学に歯学部ですかと聞いた事を覚えております。その答えは患者さんがあまりにも多いので各医院に勤務医を置くことが出来る、それに鹿児島は多くの離島をかかえていて、歯科医師の需要は君たちの考えている以上に多いのだと諭されました。

それ以来30年の間に1,590余名の歯科医師の方々が世の中で活躍されていると伺っております。また、東北の二つの県におられないだけで、ほとんど全国のいたるところで活躍されて地域歯科医療を担っておられる事にも敬意を表す幸いです。

一方鹿児島においても開業されている先生と大学で研究を続けていらっしゃる先生を合わせますと458名になられるとか。鹿児島県歯科医師会の会員数が現在826名ですので本当に大きな勢力に成長されておられます事は大変おめでたいと思ひ、今後の鹿児島の歯科

界をリードしていただかねばならないのは明白です。それ故に卒業生の方々の役割は重要なものになってまいります。

現代に目を向けてみますとアメリカの新大統領オバマ氏がチェンジを唱えて就任が決定してどのように立て直してこられるか興味のあるところでございます。一方、リーマンブラザーズの破綻、AIGの経営不振など経済もあたかも恐慌の前触れとも言える状況になりそうな様相を呈しているようです。そんな中「生活の医療」と言われる歯科医療は苦境に陥っており、歯科医療に関する一般生活者の意識調査で歯や口腔に異常を感じても二人に一人は受診しないとのデータもあり、これ程までに歯科は真冬の状態になってきております。

このような状態を抜け出すにはやはり政治力に頼る以外に方法はないものと思われまふ。それにはやはり歯科医師が一致団結してゆかねば、大きなものは動かせません。鹿児島大学歯学部出身の先生方が中心になって活躍していただかねばならない日が目前にせまってきました。

真冬の時代であっても私どもは地域住民の歯と口腔の健康の保持増進に寄与し、さらに高度の歯科医療を供給しなければなりません。医療需要はなくなる事はないのですから。

私ども鹿児島市歯科医師会では学会、研修会、セミナーなどを開催のあり、鹿児島大学歯学部の先生に講師をお願いし、会員と共に今後も勉強させていただきたいと思っており、この事も大変感謝しているところでございます。

最後になりましたが30周年をさらに50周年、100周年と重ねてさらなる飛躍をとげられる事を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

本当におめでとうございます。